ボランティアスピリットの継承のために

# 水難救済思想の普及活動レポート

神奈川県平塚市立太洋中学校での「海の安全教室」

## 海の安全教室

「若者の水難救済ボランティア教室」を平成13年度から、主に小中学生を対象として海を安全に楽しむための基礎的知識・技能を体得してもらうと共に、水難救済ボランタリー思想の普及を図ってきましたが、平成29年度から、対象を地元一般市民にまで拡大して「海の安全教室」として国土交通省、海上保安庁、消防庁から後援を受け、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々を講師に招いて全国各地で開催していきます。

膨張式救命浮環の体験

## 高知県水難救済会

### 身近な物を利用した溺者救助法等を学ぶ

平成29年６月30日、午前、高知市立昭和小学校において、当初プールにて教室を開催予定のところ、雨天のため視聴覚教室において、「海の安全教室」を開催しました。

海の安全教室は同小学校６年生95名と教職員３名が参加して、講師に高知海上保安部職員４名を招き、118番緊急通報用電話をはじめ自己救命索確保に関する説明を受けるとともに、身近な物を活用した救助法やライフジャケットの着用体験等を行いました。

ライフジャケット着用体験

## 公益社団法人　琉球水難救済会

### 沖縄水産高校生が心肺蘇生法等救急救命の知識等を習得

平成29年６月27日午後、沖縄県立沖縄水産高校の多目的室において、１学年生徒39名及び高校教諭４名が参加して、那覇海上保安部から２名及びNPO法人沖縄ウォーターパトロールシステムから１名の計３名を講師として招き、救急救命の知識や、技術の習得を目的として「海の安全教室」を開催した。

教室は、はじめに琉球水難救済会永吉常務理事から琉球水難救済会の事業内容等の紹介が行われたのち、引き続き、那覇海上保安部の講師から海難の現状や海難防止に関する講話が行われるとともにNPO法人沖縄ウォーターパトロールシステムの講師により、二人一組での心肺蘇生法やAED取扱等について訓練が行われた。その後１グループ10名に分かれてレサシアンを使用し、心肺蘇生法等の手順について繰返して実技を行い、手順を身につけていた。

なお、教室の最後に生徒代表から感謝の言葉が述べられた。

（公社）琉球水難救済会永吉常務理事からの事業内容等の紹介

レサシアンを使用し、心肺蘇生法等の手順について体験

## 特定非営利活動法人　神奈川県水難救済会

### 愛する人を救うことが出来ますか？

平成29年６月27日午後、神奈川県平塚市立太洋中学校において、「海の安全教室」を開催しました。

同中学校の２年生103人が参加して、湘南海上保安署、平塚市消防本部、湘南ひらつかライフセービングクラブから講師を招き心肺蘇生法を学びました。

少人数のグループに分かれ、各グループが１時間程、実際にダミー人形に触れてもらい、心臓マッサージやAEDを体験してもらいました。

参加者からは、「AEDの設置場所を改めて確認しようと思った。」「とても難しそうに感じたが、実際に体験してみると自分にも出来ることだと感じた。」「手を抜くと、助けられる命も救えないのではと感じた。しっかり練習し、もしもに備えたい。」などの感想が得られました。

心臓マッサージやAEDを体験

## 特定非営利活動法人　長崎県水難救済会

### 海の安全教室に職場体験中の中学生が参加

平成29年７月12日午前、長崎県長崎市の長崎ペンギン水族館において「海の安全教室」を開催しました。

同水族館スタッフ等20名が参加、講師として長崎県水難救済会職員３名の他、長崎海上保安部職員２名を招き心肺蘇生法、AED使用法等を学びました。

長崎ペンギン水族館からの要請により毎年開催しており、水族館スタッフから「気分の悪くなったお客さんがいた際に、講習が役に立った。」との声も聞かれ、皆さん熱心に講義を受けていました、今回は、職場体験に来ていた中学生にも参加してもらいました。

職場体験で来館の中学生が参加し心肺蘇生法、AED使用法を体験

### イベント参加者が心肺蘇生法を体験

平成29年７月16日午前、長崎市伊王島多目的広場において開催された一般社団法人長崎青年協会が主催する青少年育成事業の一環として行われる夏のイベントにおいて「海の安全教室」を開催しました。

同イベントには小学生とその家族等約200名が参加、この参加者に対して、長崎県水難救済会職員と長崎海上保安部職員が講師として、海浜事故に遭遇した場合の対処法や心肺蘇生法等の講習、実演体験を行い、皆さん熱心に取組んでいました。

## 海難救助訓練ほか

平成28年度は、全国27の地方水難救済会において延べ208の救難所・支所から3,341名の救難所員が参加して実地訓練などが行われました。

公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター全道大会の模様

### ■静岡地区水難救済会

### ダイバー救助員による潜水捜索訓練実施

静岡広域DRS救難所は、平成28年４月28日に設立されたダイバー中心の救難所です。

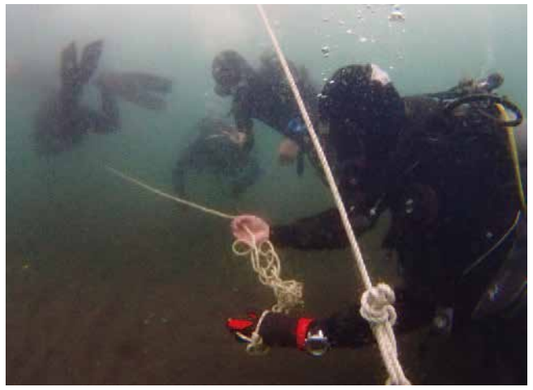
これまで、伊東市内のプールで潜水捜索訓練を行ってきましたが、新たに沼津市近郊を拠点としている新規救助員も加わったことから、平成29年３月14日に、清水海上保安部より講師を招き、沼津市千本浜マリンクラブ及び前面海域において潜水捜索訓練を実施しました。

当日は、潜水捜索法についての座学、陸上での捜索実技訓練の後、海域において潜水捜索法実技訓練を行いました。

同訓練により、海上保安庁の潜水士が行っている、結索方法や水中捜索方法等の基本を理解することができ、今後の海難救助活動に活かされることが期待されます。

また、この訓練には、駿東伊豆消防本部潜水隊の潜水士も多数見学に訪れており、訓練後には、合同訓練を希望する声もあり、関係機関相互の連携にも役立ちました。

陸上における訓練の模様



水中における捜索訓練の模様

## ■公益社団法人　北海道海難防止・水難救済センター

### 全道大会を檜山郡江差町江差港で実施！

平成29年６月３日、檜山郡江差町江差港新北埠頭において「平成29年度海難防止・水難救済センター全道大会」を実施した。

同大会には、道内107救難所から450名の救難所員が参加し、岩﨑 俊一第一管区海上保安本部長や菊井大蔵公益社団法人日本水難救済会常務理事など来賓をはじめ大会関係者など総勢500名が一堂に会しました。

大会では、檜山地区女性部及び青年部代表による海難防止安全宣言に続き、ゴムボート操法、救命索発射器操法、心肺蘇生法の救難技術競技や火災船救助訓練が行われ、救難所員は日頃の訓練の成果を十分に発揮した。

開会式で整列した各救難所員

ゴムボート操法競技

救命索発射器操法競技（上、下）

心肺蘇生法の救難技術競技

火災船救助訓練



## ■京都府水難救済会

### 官・民合同による水難事故救助訓練を実施

平成29年６月26日、京都府京丹後市網野町の八丁浜海水浴場において「官・民合同による水難事故救助訓練」が実施され、京都府水難救済会マリンレスキュー網野救難所が参加した。

同訓練は、夏の海水浴シーズンを前に、海水浴場等における水難事故に備え関係機関の連携を高めることを目的として様々な想定により行われ、マリンレスキュー網野救難所は、救助船６隻による漂流者捜索、発見揚収救助、陸上までの搬送、救急車へ引継ぐまでの訓練を行った。

訓練に当たり整列する参加者

漂流者の捜索訓練の様子

漂流者に見立てたブイを発見し救助船内に揚収

## ■公益社団法人　琉球水難救済会

### 中北部地区救難所員合同訓練を実施

平成29年６月５・６日、沖縄県北谷町のアラハビーチ救難所前面海域において、NPO法人ウォーターパトロールシステム理事長等の指導のもと、中北部地区救難所員13名が参加して中北部地区救難所員合同訓練を行った。

この訓練は、琉球水難救済会救助員を養成するため、心肺蘇生法やAED訓練をはじめ、レスキューチューブを使用した救助法等、様々な救助方法を学んだ。

訓練参加者は、炎天下、海浜や海上で直射日光に晒されていましたが、最後までベストを尽くしており、各自の使命感の強さが感じられた。

なお、６月９日にも沖縄県恩納村において、恩納・読谷地区救難所の救助員23名が参加して救難所員合同訓練を行った。

中北部地区救難所員合同訓練参加者

レスキューチューブを使用した救助訓練

レスキューボードを使用した救助訓練の様子

心肺蘇生法訓練の様子

# 水難救助等活動報告

**平成29年度上半期に報告のあった、主な水難救助活動の事例を報告します。**

## ① 和歌山県水難救済会 紀中救難所 箕島町支所

### 救助船を接舷させ火災漁船から乗組員を救助

平成28年11月13日午前８時10分頃、和歌山市の紀ノ川河口沖で小型機船底びき網漁業を操業中の漁船(総トン数11トン)の乗組員が機関室からの異臭に気付き、船長が確認するため機関室の蓋を開けたところ、一気に黒煙が噴出したことから、海水をかけて初期消火を試みるも火勢はおさまらなかった。

付近海域で操業中の紀中救難所所属の救助船漁船金比羅丸（総トン数12トン）の救助員が異常な黒煙を上げている漁船を発見、午前８時50分頃、直ちに同船に無線で異常の有無を確認するとともに、同船に急行し、火災船を放棄して海中に飛び込み退避する寸前の午前９時頃、同船に接舷し、乗組員２名を救助船に乗り移らせ救助した。また、その後、別の救助船で船名が同じ、漁船金比羅丸（12トン）に救助された乗組員２名が移送され同船により箕島漁港まで搬送され、午前10時20分頃救急車に引き継ぎ救助完了した。

なお、病院に救急搬送されたが、多少煙を吸ったことにより息苦しいものの診察結果に異常がなかった。また、火災船は和歌山海上保安部の巡視艇きいかぜなどにより消火活動が行われたことにより午後０時10分鎮火し、その後、漁業協同組合手配の作業船により和歌山下津港和歌山区まで曳航された。

紀ノ川沖で炎上する漁船

救助した救助船金比羅丸

巡視艇による消火活動

巡視艇により消火活動が行われ鎮火した漁船

## ② 愛知県水難救済会 伊勢湾南部地区救難所

### 救難所発足後、初めて海難救助に出動し、暗礁に乗揚げたプレジャーボートと乗組員を救助

平成29年４月５日午後３時27分頃、「愛知県知多郡南知多町大字師崎所在の羽島灯標付近から54度、50メートル付近の暗礁地帯に、５名乗組みのプレジャーボートが乗揚げた」との同船船長からの118番通報により救助要請を受けた衣浦海上保安署は、直ちに所属の巡視艇を出動させるとともに、愛知県水難救済会伊勢湾南部地区救難所に出動を要請。これを受けた伊勢湾南部地区救難所は師崎救難支所に救助船の出動を要請し、師崎救難支所は直ちに救助船第三琉星号（総トン数0.6トン）及び法徳丸（総トン数0.7トン）の２隻の救助船を出動させ、現場に急行し、５名が乗組み、乗揚げていたプレジャーボートを曳き卸ろし、師崎港まで曳航、救助完了した。

伊勢湾南部地区救難所は、平成29年４月１日に発足しており、師崎救難支所として初めての海難救助であった。

暗礁地帯に乗揚げたプレジャーボート

救助活動中の救助船第三琉星号

プレジャーボートを曳航中の救助船

## ③ 愛知県水難救済会 衣浦救難所

### 部活中に天候が急変し、強風で転覆したデンギーヨットの生徒を救助

平成29年４月29日、午後３時頃、愛知県立半田高校から「愛知県衣浦港内において、ヨット部のヨットが転覆して、生徒20名が海に投げ出されている」との連絡があり、直ちに衣浦救難所は救助船きぬ10号スカイブルーⅡ、第三正栄丸及び豊和丸(以上すべて５トン未満)を出動させ、海上保安署等関係機関と協力しながら、救命胴衣を着けて海に投げ出された生徒20名を船上に収容するとともにデンギーヨット10艇を午後４時40分までに曳航救助完了した。

本件は、ヨット練習中に突然、毎秒15メートル以上の強風が吹き付け、相次いで全艇が転覆し、１艇に２名づつ乗艇していた生徒20名が海に投げ出され、当時、現場海域周辺にて、この異変に気付いた衣浦海上保安署巡視艇等が協力し全員救助したもので、このうち、愛知県水難救済会衣浦救難所の救助船３隻が６名を救助した。

なお、５月10日、衣浦海上保安署長から、この海難救助活動の功労に対し、衣浦救難所員等に感謝状が贈られた。

転覆したヨット

本海難救助で衣浦海上保安署長から出動した衣浦救難所の救助員に感謝状が贈られた

## ④ 公益社団法人 福岡県水難救済会 芦屋救難所

### 強風で沖に流された手漕ぎミニボートの乗組員２名を救助

平成29年５月４日午後１時15分頃、芦屋の遠賀川河口付近で遊漁中の２名乗り組みの手漕ぎミニボート（約３メートル）が強風のため沖に流され帰還不能となったことから、同ボートの船長が118番通報にて救助を求めた。

同通報を受けた若松海上保安部は同日午後１時45分頃、芦屋救難所に出動要請を行ない、救助要請を受けた芦屋救難所は午後２時頃所属の救助船住吉丸（総トン数1.1トン）に救難所長自ら及び船長の救助員１名が乗船、芦屋漁港を出港し、午後２時13分頃遠賀川河口から約３キロ沖合において同ボートに会合。乗船していた２名を救助船住吉丸に揚収し、芦屋漁港まで搬送、救助完了した。

なお、ボートは現場に到着した巡視艇により救助された。

## ⑤ 公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター　石狩救難所

### 沖合で機関故障により航行不能となったプレジャーボートを救助

平成29年５月23日、午前11時45分頃、「北海道石狩市所在の石狩湾新港東埠頭沖合においてプレジャーが機関故障のため航行不能となり漂流している。」と小樽海上保安部から石狩救難所に救助出動要請があり、直ちに救助船第七十八大三元丸（総トン数4.8トン）及び第三十一公竜丸（総トン数4.9トン）にそれぞれ１名の救助員が乗船して同港東埠頭から現場向け出動した。

同午後０時14分頃現場に到着の後、付近海上にて捜索を行っていたところ、プレジャーボート（総トン数0.1トン）及び乗組員１名を発見。同午後０時25分新港東埠頭に曳航し、救助完了した。

## ⑥ 公益社団法人 福岡県水難救済会 有明マリン救難所

### 転覆した漁船に掴まり救助を求めている男性１名と転覆船を曳行救助

平成29年３月29日午前11時30分頃、熊本県宇城市の三角ノ瀬戸付近航行中の救助船寿勝丸（総トン数4.97トン、３名乗組）に乗船していた救助員が左舷側約200メートルの海面付近で転覆しているプレジャーボートに掴まり救助を求めている男性１名を発見、直ちに現場にUターンし、救助作業にあたったが、救助を求めていた同人は胴付長靴を身につけていたことから、乗船していた救助員３人掛かりでやっと船内に引き揚げ救助するとともに、転覆していた同船を救助員により引起し、排水ポンプによる排水作業を行った後、近くの登立の港まで曳航、救助完了した。

## ⑦ 京都府水難救済会　宮津・与謝救難所 京都府漁協伊根・浦島支所

### 定置網に乗揚げたヨットを救助

平成29年４月16日、兵庫県加古郡播磨港を山形県酒田港向け単身乗り込み出港したヨット（総トン数５トン）が寄港地の京都府京丹後市所在の間人漁港を５月５日午前５時出港し、次の寄港地福井県小浜港向けて経ケ岬灯台岬沖沿岸を航行中の午前７時頃、経ヶ岬付近に設置された定置網の道網に乗揚げ自力航行が不能となった。

そして、この様子を目撃した救難支所所属の救助員が午前７時55分頃救助船第一豊漁丸及び第六豊漁丸を出動させ、同船乗り組みの救助員４名及び協力者４名により午前８時40分頃同ヨットを定置網から引き出し曳航、救助完了した。

## ⑧ 公益社団法人 琉球水難救済会　マエサトビーチ救難所

### 海水浴場で相次いで行方不明となった小学生３名を救助

平成29年３月28日午後４時20分頃、石垣海上保安部からマエサトビーチ救難所に「石垣市のマエサトビーチ海域付近で小学校６年生位の２名が沖合で行方不明になっている。」との出動協力要請があり、マエサトビーチ救難所は直ちにマリンジェットの救助船サザンスターⅥ号（総トン数0.2トン）を出動させ、現場海域の捜索を開始したところ、マエサトビーチ隣の多田浜沖合水深２～３メートル付近海上にて浮いている２名の小学生を発見し救助船に引き上げ救助し、消防隊員に引継いだ。しかし、その後、更にもう１名が行方不明になっていることが判明したので、先に救助した海域付近の捜索を再開したところ、更に沖合いで浮き沈みしている小学生を発見し、救助員が救助船から飛び込み、引き揚げ救助船に揚収、消防隊員に引渡し救助完了した。



# 新設救難所の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所が新設されています。
今回は、平成29年６月までに設置された５か所の救難所をご紹介します。
なお、紹介文は、地方水難救済会からご提供いただきました。

## ■愛知県水難救済会

愛知県水難救済会は、地域のご理解とご協力により新たな救難所の設立、既存の救難所の発展的な改組を行いました。

当水難救済会は、昭和６年10月に帝国水難救済会師崎救難所を設立という、輝かし伝統ある水難救済会と歴史を持っております。

現在、６救難所20救難支所、救助員1,500名を有する組織として発展してきましたが、漁業従事者の減少に高齢化、マリーナの経営不振などから、平成になって救難所（支所）の脱退が続き、救難所としての海難救助エリアに空白区ができました。それを打開するため、お互いに顔と顔が見える関係を築きながら、地元の有力者の方々のご理解を頂くことで、２つの救難所を発足させました。

新たに発足した救難所のうち、三河湾東部地区救難所（２救難支所）は、蒲郡市の複合マリーンレジャーの基地でもある株式会社ラグナマリーナに救難所を設置しており、施設の中にはアメリカンズカップの挑戦艇も飾られています。また、伊勢湾南部地区救難所は師崎救難所を発展改組して、６救難支所、救助員800名を有する大きな救難所となりました。

これも地元の漁業協同組合の役員、マリーナ関係の皆さんのご理解の賜物と感謝しており、海難救助ボランティア組織として、「お助け自由」の崇高な精神の原点に帰って活動をしたいと考えています。

### ◆三河湾東部地区救難所

平成29年２月27日設立　所長以下９名
所在地　愛知県蒲郡市海陽町２－１
　　株式会社ラグナマリーナ

平成29年４月11日愛知県蒲郡市、ラグナマリーナにおいて、三河湾東部地区救難所発足式が行われ、第四管区海上保安本部警備救難部惣坊救難課長、出戸三河海上保安署長及び名古屋警救課林専門官が臨席する中、愛知県水難救済会吉川会長から荒井救難所長へ辞令が交付された。

発足式に辞令を交付された後の記念撮影（前列左から第四管区海上保安本部警備救難部惣坊救難課長、荒井救難所長、出戸三河海上保安署長、名古屋警救課林専門官、愛知県水難救済会坪野理事、荒井救難所長の後方が吉川愛知県水難救済会会長）

ラグナマリーナの救助艇LAGUNA ２ Two及び救助員（左から青柳救難副所長、荒井救難所長、藤田救助長）

## ◆伊勢湾南部地区救難所

平成29年３月31日設立　所長以下６名
所在地　愛知県知多郡南知多町大字師崎字朝日町２

平成29年５月１日、師崎漁業協同組合において第四管区海上保安本部警備救難部惣坊救難課長、加藤衣浦海上保安署長及び名古屋保安部救難課専門官が臨席する中、愛知県水難救済会吉川会長から同救難所山下救難所長及び各救難支所長へ辞令が交付された。

吉川愛知県水難救済会会長から辞令を交付される山下救難所長

辞令交付後の記念撮影（前列左から竹味前片名漁業協同組合救難支所長、鈴木救難副所長兼日間賀島漁業協同組合救難支所長、山下救難所長兼師崎漁業協同組合救難支所長、山本救難副所長兼豊浜漁業協同組合救難支所長、山下大井漁業協同組合救難支所長）

# ■公益社団法人　琉球水難救済会

琉球水難救済会は、今年度、新たに「やんばる東村救難所」と83番目となる「海中道路海の駅救難所」を設立しました。

## ◆やんばる東村救難所

平成29年４月23日設立　所長以下７名
所在地　沖縄県国頭郡東村字川田334
　　福地川海浜公園事務所

東村は、プロゴルファー宮里　藍、聖志、優作３兄弟を輩出したことでも有名な村です。沖縄本島北部の太平洋側に面した地域で、特産物はパイン、ツツジのシーズンには多くの観光客が訪れる農業をメインとする村です。昨今、NPO法人東村観光推進協議会が東村の自然に着目し、ECO・BLUE・GREENツーリズムに取り組み、その成果が表れています。

BLUEツーリズムにおいては、シュノーケル体験、船釣り体験、追い込み漁体験を推進していますが、海域での安全・安心の担保のため救難所の開設が必要だとの判断のもとNPO法人東村観光推進協議会が運営することとなりました。拠点となる福地川海浜公園事務所はトイレ、シャワー、救護室・レスキュー資器材も完備されています。

救難組織の希薄な地域への開所で、水難事故発生時の体制を構築することができ、地域の期待も寄せられています。

設立された「やんばる東村救難所」の救助員と関係者の皆さん
（二列目左から警察官の右隣が吉本救難所長）



## ◆海中道路海の駅救難所

平成29年６月22日設立　所長以下９名
所在地　沖縄県うるま市与那城屋平４
　　あやはし館内

海中道路は沖縄本島中部東海岸、うるま市と平安座島の間にあります。名前から海底又は海中に作られた道路と思う人もいるかと思いますが、実は干潮時に出没する浅瀬の上に作られた道路です。

金武湾と中城湾を分断する状態で設けられた道路、その中間付近に『あやはし館』があり、地元物産販売、レストラン等が入居した道の駅があります。

多くの観光客が足を休める風光明媚な場所で、金武湾側の海域では、ウインドサーフィン、カイトサーフィン、水上バイクを活用するあらゆるマリンスポーツが行われています。

今般、『あやはし館』を拠点にグラスボート事業を開設する(資)越来造船が運営することとなったのが『海中道路海の駅救難所』です。海中道路海の駅救難所は、琉球水難救済会83番目の救難所となるが、これまで４救難所が統廃合されたことから、実質79箇所目の救難所となる。

あやはし館には、越来造船が作成した沖縄伝統のマーラン船等が展示されています。

このマーラン船は越来造船が親子で受け継いでいる琉球伝統の造船技術で制作されており、救難所長を務める治喜氏が３代目、息子が４代、５代目と技術が継承されています。この親子を中心に、救難所の運営がなされ、同地域での水難事故発生時の体制を構築し、地域の期待も寄せられている。

海中道路海の駅救難所が設置された「あやはし館」

設立された「海中道路海の駅救難所」の救助員と関係者の皆さん
（前列左から与那城消防署長、うるま警察地域課長、工藤中城海上保安部長、越来救難所長、救難所員、比嘉琉球水難救済会会長）

# ■鳥取県水難救済会

## ◆皆生救難所

平成29年５月30日設置　所長以下56名
所在地　鳥取県米子市長砂町479番地１

今年から鳥取県水難救済会に入会し、皆生救難所として活動しているNPO法人皆生ライフセービングクラブを紹介します。当クラブは、日本トライアスロン発祥の地、鳥取県米子市に1999年１月に設立されました。地元のトライアスリートが地元に恩返しをすることから始まり、現在ではトライアスリートだけでなく56名の熱い思いのある仲間が参加しています。

クラブのテーマは「For someone…誰かのために」。泳げなくてもゴミ拾いだけでも立派な活動となります。海水浴場監視活動を中心に年間を通じて水辺の環境保全、地域スポーツへの協力、救急講習会、国際交流など様々な事業を行っています。皆生救難所が拠点としている皆生温泉海水浴場は、雄峰大山を眺め、水浴場水質100選にも選ばれたきれいな水質で、12の湾の様な形をしたビーチがつながっています。

近年では４艇の水上バイクを導入して、万一の時に迅速な対応が出来るよう備えています。

また、地元の関係機関（警察、海保、消防）との合同訓練も毎年重ねており、有事の際に対応できるよう連携を図って活動しています。

ライフセービングクラブで構成された皆生救難所の皆さん